

こんしゅう しゅう かく
今週のことば「**収穫**」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》マタイによる福音書 9:36-10:8

たね
たねが種をまくのか

ふくいんせんきょう かんが ば あい
福音宣教について考える場合に、いつ
もんだい だれ たね
も問題になるのは、誰が種をまくのかと
いうことです。

だいに こうかいぎ ひら
第二バチカン公会議が開かれるまで、
きょうかい ふきょう ことば つか
教会では「布教」という言葉がよく使わ
れていました。「布教」という言葉は、
ふくいん し ひと ふくいん おし
福音を知らない人に福音を教えるという
かんが せんきょうし
考えがあります。宣教師たちはそうした
かんが とお ち は で
考えから、遠く地の果てまで出かけてい
に ほん げんざい せんきょうし なか
きました。日本に現在いる宣教師の中に
かんが ひと
もこうした考えの人がいます。

だいに こうかいぎ い ごと
しかし、第二バチカン公会議以後、
ふくいんせんきょう ことば ふきょう
「福音宣教」という言葉が、「布教」と
ことば かわ つか
いう言葉に代ってよく使われるようにな
ふくいんせんきょう ことば つた
ります。「福音宣教」では、言葉で伝え
るだけでなく、生活におけるあかしとい
てん ちゅうい び
う点にも注意が向けられています。

さらに、こちらがよいものを持ってい

あた あいて
てそれを与えるだけでなく、相手のよい
う い ようきゅう
ものを受け入れることも要求されます。
ふくいん かんが はたら
つまり、福音は神の働きによってすでに
まかれているということです。

しゅう かく
収穫

しゅうかく でし はけん
イエスは収穫のために弟子たちを派遣
します。せつかく かんが はたら ふくいん
し。せつかく神の働きによって福音
たね ひとびと じ ぶん
の種がまかれています。人々は自分たち
ふくいん も き
がすでに福音を持っていることに気づか
ば あい おお でし
ない場合が多いのです。イエスの弟子の
やくわり じ ぶん かんが あいて お
役割は、自分たちの考えを相手に押しつ
あいて も ふく
けることではなく、相手の持っている福
いん しゅうかく
音を収穫することなのです。

わたし ちゅうい じ ぶん しん
私たちは注意しないと、自分たちの信
ただ あいて お
じていることが正しく、それを相手に押
けいこう じ ぶん
しつける傾向があります。自分たちだけ
ふくいん も あいて あた
が福音を持っていて、それを相手に与え
しゅうかく
ようとしてしまうのです。「収穫」はず
あいて も ふくいん う い
でに相手が持っている福音を受け入れる
ことなのです。

ねんかんだい しゅうじつ ねん たきのしゅうざぶろう
年間第11主日A年（瀧野正三郎）